

虚子記念文学館投句特選句・令和五年十二月

稲畑廣太郎 選

虚子館の高窓の日や小六月

新潟 安原 葉

虚子の空汀子の空や冬の月

京都 西村やすし

海となる逡巡冬の芦屋川

滋賀 磯田ひろみ

ふたご座の星吐く真夜の湯ざめかな

兵庫 玉手のり子

除夜の湯の大きくわれを包みけり

神奈川 進藤剛至

ほつほつと茶の花灯る散歩道

奈良 堀ノ内和夫

匂やかに濡れて祇園の時雨あと

大阪 杉山千恵子

濃く淡く色泳がせる枯野かな

大阪 田邊育子

しづかなる除夜の深みの下りてゆく

兵庫 山田翔太

生徒会選挙の朝や息白し

兵庫 武田奈々

(青少年)

入選句・令和五年十二月

推敲の迷路に嵌りたる湯ざめ	兵庫	川村ひろみ	ガスタンク返す小春の日のまどか	大阪	若林友子
冬紅葉万の雨粒抱きけり	大阪	奥野千草	二歳児のおもちやのチャチャ冬ぬくし	石川	白根寿子
茶の花の純白凜と保ちをり	大阪	山田佳音	チェロの音はゆたり流るる冬の月	三重	中島庸子
冬構愛車もタイヤ交換し	石川	辰巳昌彦	愛車駆る枯野の続く県境	大阪	ふじもと言果
山壁に立つ木一本枯野かな	香川	藤田敦雄	潜く度意表を突いて鳩浮ぶ	兵庫	小柴智子
二三片思ひの欠けし石路の花	香川	三好ようこ	師を偲び掃かるる落葉惜しみけり	大阪	谷本房子
ポストまでちよつとそこまでちやんちやんこ	大阪	多田羅紀子	ポインセチア華あるやうな無きやうな	三重	松村咲子
汀子師のご遺影館の冬ぬくし	大阪	徳岡美祢子	神渡突如魔球となるボール	三重	池本準一
能舞台雅楽の音をのせ小春	岡山	田口ひさえ	アナウンスポインセチアも溶けこんで	三重	吉川博子
冬麗鳥籠となる一樹かな	岡山	祐森水香	生還の身にしてもなほふぐと汁	兵庫	高野さち
蒼天や長元坊の真逆さま	兵庫	前田容宏	湖の綺羅に解けゆくかいつぶり	兵庫	齊木富子
大川をいきつ戻りつ都鳥	兵庫	槌橋眞美	悴んでいては踊れぬ安来節	兵庫	上岡あきら
ひろげつつ行けば枯野のひろさかな	兵庫	出雲元子	しみじみと偲ぶ人あり冬の月	兵庫	山之口倫子
風一陣落葉の走る丘の上	大阪	徳永由起子	短日のあと一駅の遠さかな	大阪	立入宮子
妖気呼ぶ夜風北風鵲の塚	大阪	室田妙子	本堂は藁葺き屋根よ枯葉舞ふ	兵庫	小川孝子
枯野なるアウシユビツツの收容所	東京	高橋育夫	一畝を匂ひ立たせて九条葱	大阪	大橋明子
一年の心納めの虚子館に	大阪	林 曜子	汀子邸池に映して冬紅葉	兵庫	黒田千賀子
佛の庭にまたきた師走かな	兵庫	細田清子	石路の黄の省略つくす色として	大阪	北上美佐子
作業終へ腰のタオルを頬被	兵庫	高橋純子	いつになく華やぐ仏間ポインセチア	兵庫	宮本露子
教科書の子規の横顔鳳仙花	大阪	小谷香代子	梵鐘のなかはからつぽ冬の空	大阪	押見げげげ
流行語大賞はアレ冬ぬくし	兵庫	森岡喜恵子	病院の除夜に感慨なかりけり	大阪	西尾浩子
汀子邸すみ絵と化する冬満月	岡山	小幡恒雄	見えぬ先見えずともゆく年惜む	石川	辰巳葉流
百彩の光ちりばめ紅葉散る	奈良	山口廣世	除夜の宿八坂の塔を下に見て	香川	葛原由起
行秋や歩き疲れし影法師	奈良	河村久美子	穴に入りどこか綻ぶ熊の貌	兵庫	中村恵美
			為す事をすべて為し終へ除夜の湯に	香川	奥村 里

虚子館に師走のひと日籠りたる	兵庫	藤井啓子	湯ざめしてファーと汽笛の嘆く夜	静岡	いたまき忠
水涸れて日溜まりしるき芦屋川	鳥取	棕 誠一朗	戦火の子胸に抱き椰葉飾る	神奈川	斉藤苑子
日の育て風の研ぎゆく冬芽かな	兵庫	涌羅由美	ちから得る主治医の言葉十二月	兵庫	西村みどり
冬帝の煌めき包む館の午後	兵庫	奥田好子	逆さ富士夢の褥に鴨浮寝	大阪	石橋玲子
師の在さぬ門扉鎖されしままに冬	香川	真鍋孝子	かつらぎの字体そのまま青畝の忌	島根	吉浦 増
何事も笑ひ飛ばして木の葉髪	兵庫	吉村玲子	さりげなく距離を置きをり浮寝鳥	兵庫	二瓶美奈子
江戸紐の角台に差す冬日かな	兵庫	辻 桂湖	虎落笛邪念を連れて遠くなり	兵庫	雲山ひまり
ひともとに幸あるくらし冬桜	兵庫	岸川佐江	残業のたい焼片手虎落笛	兵庫	伊藤秀子
冬芽つけ青き空へと突き出す枝	兵庫	辻田あづき	虎落笛無人駅舎を降りてより	兵庫	入谷千恵子
六甲に青空降りて来て小春	鳥取	前田 千	がき大将恐怖に落とす虎落笛	兵庫	山口弘子
カヌー漕ぐ光る小春の水しぶき	千葉	山崎寿仁	朝よりの怒濤の止まず虎落笛	兵庫	山岸正子
君は今中有の旅や時雨虹	大阪	河辺さち子	ワイングラス片手に談義虎落笛	兵庫	道中義臣
虎落笛遠き記憶の道標	兵庫	池田文子	海風にもらふ力や虎落笛	兵庫	三木雅子
母の歳越えられるかな柚湯浴ぶ	京都	前 悦子	冬空や抱へて配るカレンダー	愛媛	星月彩也華
虚子館は心の浄土納句座	大阪	須知香代子	寒晴や遠白山のいよよ白	石川	伊東弥太郎
山寺の磴の紅葉の日溜まりに	京都	杉森大介	水の無き河口冬ざれ芦屋川	兵庫	中村澄子
山茶花の道行く川の奥ぞ行く	三重	水越晴子	山茶花の散りつぐ影を重ねつつ	兵庫	岩鼻絹子
師の庭の静寂に触れて年惜む	兵庫	田村恵津子	閉店の告知ある店日記買ふ	奈良	豚々舎休庵
クリスマス赤きネイルを試したき	大阪	山口恵津子	御覧なさい師の声冬の流星群	兵庫	岩水ひとみ
たわいなき話がうれし年忘れ	大阪	畑 和枝	サーカスの跡地に雨や冬の草	兵庫	高市敦之
句を学びつつ渡りたる冬の川	兵庫	大下恵美子	風に色さらはれてゆく冬薔薇	兵庫	足立朱麻
白湯一杯飲んでではじまる冬の朝	兵庫	雉鼻陽子	虚子館の俳磚に佇つ寒くとも	兵庫	柄川武子
虚子館へ句友和になり冬ぬくし	兵庫	保田和子	山の端にかかる夕日や冬至粥	兵庫	恵島祥一朗
虚子館を訪ひて句心冬木の芽	兵庫	上田治子	風邪ひきて異郷の友の声変わり	熊本	貴田雄介
置物の鶴に目のいく冬紅葉	兵庫	長安悦子	手枕に除夜の鐘聞く古都の宿	滋賀	近江堇花

夕星のはやもほのめく小晦

兵庫 太平楽太郎

注連縄に確と繋がれ夫婦岩

和歌山 中島紀生

師を想ふ無窮の夜空クリスマス

愛知 小野 薫

数へ日の豚骨しやうゆ京都駅

兵庫 キートスばんじょうし

バスの背に手を振る母よ小夜しぐれ

兵庫 福田光博

絵本閉づ吾子の寝顔や虎落笛

兵庫 阿曾宏之

戦場に歌や流るる年の暮

神奈川 小林 心

息白く火入れ待ちある登り窯

埼玉 土井洋子

大晦日紅白終はり戦果の報

東京 宮村土々

冬の朝厨の母を包む湯気

神奈川 金子三奈乃

赴任地で言問ふ友や都鳥

兵庫 伊集院秀樹